あすなろ
熊谷女子高校
図書委員会
第667号
2021年1月27日
発行

Never give up,
great things take time.
あきらめるな、すばらしいことは
成し遂げるには時間がかかるんだから。

節分

○節分とは
雑節の一つで、各季節の始まりの日（立春・立夏、立秋・立冬）の前日のこと。「季節を分ける」ことも意味している。江戸時代以降は特に立春（二月四日ごろ）の前日を指す場合が多い。

○節分の意義
季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると信じられていたため、それを追い払うための悪心霊ばらい行事が執り行われていた。

○歴史
邪気を追い払うためとして、古くから豆撒きの行事が執り行われている。文献に現れる最も古い記録は、室町時代の応永三十二年（一四二五年）正月八日（節分）を記した二文書である。その中の一つである「花営三代記」には「節文大豆打役。」や「アキノ方ヨリウチテアキノ方ニテ止」をあることから既に武家や公家で豆まきが習わしになっていたことが分かる。

○行事食
1、福豆…大豆を炒ったもの。自分の年齢あるいは年齢に一つ加えた数だけ食べる。（豆まきで落花生を撒く地域もある）
2、恵方巻…恵方を向いて願いごとをしながら、無言でかぶりすると縁起が良いとされる太巻き寿司。

師曰く　「自然と戯れる」

春の陽の暖かさ、夏の虫の声、秋の稲穂が輝く黄金色の田んぼ、冬の厳しい寒さの中に必死に生きようとする動植物の輝きなど、どれをとっても季節の中にちりばめられた自然の姿は実に美しい。海や湖で釣りをしたり、キャンプやバーベキューをすることが趣味の私は先日近所の大きな川の橋の下でキャンプ用のテーブルを出し、コンロで沸かしたお湯でお茶を飲みながら「スプーン作り」を行った。ホームセンターで購入した山桜の端材を彫刻刀を片手にただひたすらに削り続ける。誰もいない河原で冬の暖かい陽射しを浴び、美しい秩父の山々を眺めながらの作業。近場とはいえ自然と戯れる極上の時間は瞬く間に終わり、夕刻の冷気に包まれたために撤収した。思い返せば小学生の頃に校庭でサッカーや野球をする友達もいる中で、私はいつも学校の裏にあった森か公園の近くの畑や空き地の木の上にいた。秘密基地を造るためだ。あの時感じた極上の感覚を身体が覚えていて今日に至るのだろう。スプーンの完成までにはまだだいぶ時間がかかりそうだが、忙しい日々の中で自然を感じることを私のリフレッシュ法としてこれからも続けていきたい。

☆このコーナーは熊女の先生から生徒たちへのメッセージです。

「神様の御用人」　浅葉　なつ

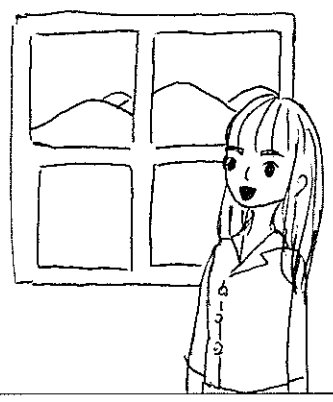
神様たちの御用を聞いて回る人間『御用人』ある日突然、孤神からその役目を命じられたフリーターの良彦は、神々に振り回されることになり…!?ごく普通の「人間」が神様たちにできること。それは果たして助っ人なのか、パシリなのか。けれど、そこには神様たちの「秘めたる願い」と人間との温かい絆があった。自然と心が温かくなる小説

「レインツリーの国」　有川　浩

忘れられない本を通して出会ったふたりの恋愛小説。メールの交換から、彼は彼女に会いたいと思うようになっていたけれど、彼女はどうしても会えないと言います。共通の趣味を通して惹かれ合いながらもお互いにすれ違いもあり、ピュアなふたりを応援したくなります。彼女が会えないというのには大きな理由があり物語の鍵となります。

著作権の都合により本文は省略

朝ゆえに
谷川俊太郎



読書班